

あいさつ

稲化会会長 高宮信夫

昭和61年3月、関根前会長が定年退職される頃から稲化会会長も交替したいとの意向を再三にわたって洩らされていたが、今年から私が会長としての役をお引き受けすることとなった。同時に、従来副会長は学内の先生が引き受けていらしたが、この際卒業生もかなり増えてきたことでもあり、第1期卒業生の中から長瀬裕氏にお願いすることとなった。

昭和62年9月から伊藤紘一教授が在外研究のためカナダへ1年間出張されることとなったので、伊藤先生が長年担当されていた庶務の仕事は松本和子助教授に代って頂くこととなった。

振り返って見ますと昭和48年4月に化学科第1期生を迎え入れて以来、すでに14年の年月が経過し、昭和63年は化学科創立15周年に相当する。この間に世に送り出した卒業生と現在在学している化学科学生との合計は、約

460名になる。また博士の学位を授与された人は9名、修士の学位を授与された人は103名になる(昭和62年6月現在)。前号でも述べたように数年来卒業生、教職員の努力の成果であろうが、就職状況は大変によく、1学年30名の定員に対し数百の有力企業から求人があり、しかも4年生の半数を越える人々が大学院へ進学する状況にある。教育研究および社会での卒業生の活躍が順調に軌道に乗っていることの反映と考えるべきであろう。

昭和63年はまた理工学部創設80周年に相当する。理工学部全体として80周年記念行事を行なうことが最近決定された。理工展、スポーツ大会の規模拡大、シンポジウム開催などの案があるが詳細は未確定である。理工学部80周年記念誌は昭和63年4月に発行される予定である。

教授随想

伊藤礼吉

わが経済感

稲化会に何か書くように言われた。締切りは1週間後と言ってきた。余り掘り下げた感想はまとまらないので流れる水のように浅く軽く書かせて頂くことにした。

東京の地価はまだ上昇するらしい。これに伴って路線価というのが上がるので固定資産税や相続税などが上昇しておしつけられてくる。国のために税金を払うのは当然というもの、事は住居に関する問題だけに重く負担を感じる此の頃である。東京はロンドンとニューヨークと並んで金融界の中心的存在に

なってきた。米欧は貿易戦争で日本に負けたが、金融戦争では日本に負けられぬとばかり東京に集まるシティーやウォール街の金融界の事務所が多いから外人家族がふえてくる。都心でもやがて定住する人口は減り、通勤圏として変らざるを得ないように思う。先頃、ベネチアにおいてサミット会議が行われた。この頃は1ドル142円前後の攻防であったが、これ以上の外為の変動は世界経済の発展のためによくないとの意見の一致が行われて、ドルは小康状態を保っている現状である。敢えて小康といったのは将来に不安要素が沢山あって、先がよく見えないからである。世界の基軸通貨の役割りをになうアメリカ合衆国が頼りにならない。財政赤字と貿易赤字に加えて、中南米諸国における不良債務のためにパンアメリカやシティーコープなどの有力銀行

が債務の引当金の積立てを始めている。こうなるとアメリカの経済界では設備投資が減り、個人の貯蓄が減り、借金を背負った生活に追われて景気が悪いらしい。このような背景にあっては日本の経済も独立独歩というわけにはいかない。近頃の世界の景気というものは甚だ global なものであって一様に連動しているものだから、基軸通貨のドルが信用を回復しなければ世界の景気はよくなる。日本の企業は海外に工場を建てて急場しのぎをしているが、これも行き過ぎれば好ましくないことが予想される。日本のあとを追いかけて相当の実力を持ってきた国々がアジアに増えている。NICsと呼ばれるこれらの国々はUSAの貿易赤字の25%を占め、アメリカの首脳が神経をとがらせている。日本に仲介役をとらせて通貨の切り上げをやらせようとするが、同じアジアの友好国に対して日本は合衆国との板ばさみに合い、アメリカの補佐役は難しいのである。このような現状ではサミット後のドルの小康も不安定となり、昭和初期のような大恐慌時代が全く予測から捨て切れないところに日本の悩みがある。アメリカは輸入を抑えてもっと自力で生産をやらねばならない。

松本和子

ポリアニオンとパーオキシドの話

無機化学の中にポリアニオンと呼ばれる一群の化合物がある。これは、例えばアルミのアルカリ性水溶液中に生じるアルミのポリマー $[\text{AlnO}_i(\text{OH})_m(\text{H}_2\text{O})_j]^{i+}$ (組成不明)

や $[\text{Al}_2\text{O}(\text{OH})_6]^{2+}$ などの縮合水とイオンでアルミの定性分析に使う水酸化物沈殿の反応も実はこのような複雑な化学種を含む過程を経ている。リンの吸光光度定量に応用されるリンモリブデン酸、 $\text{PMo}_{12}\text{O}_{40}^{3-}$ は古くから知られるポリアニオンである。数ヶ月前、ある人に頼まれてこの $\text{PMo}_{12}\text{O}_{40}^{3-}$ と H_2O_2 の反応を調べたところ、一見極めてガッチリした構造のポリアニオンの周辺部の酸素 $-\text{O}-$ がパーオキシドグループ $-\text{O}-\text{O}-$ と容易に置換するらしいことがわかった。この反応は CrO_4^{2-} に H_2O_2 を作用させると $\text{Cr}(\text{O}_2)_2^-$ になるという有名な反応に似ておもしろいと思った。さっそく反応生成物のパーオキシドのIRをとろうと乳鉢でKBrとすったところ、ドカンッ、パチ、パチ、パチッと中小の爆発を繰り返し分解してしまった。(音のわりには、何も実害はなかった。) 念のため残留物のIRをとったところ、ほとんど原料の $\text{PMo}_{12}\text{O}_{40}^{3-}$ であった。

さらにその数日後、我家で子供たちがおもしろい飴があるから食べてごらんと私のところに飴を持ってきた。仁丹より一まわり大きい赤色の小粒をバラバラと口にほうり込むとパチッ、パチッ、パチッと爆発をして消えていった。たしか“ドンパチ”という名のお菓子の成分はしかしもちろんパーオキシドではなく、単に炭酸と書いてあったので、加圧状態の CO_2 を飴の中に閉じ込めたのであろうか。うまいタイミングと適当な強さでうまくはじけるものだと、このアイデア商品に感心した。

新博士紹介

1986年以降に早稲田大学から博士号を受けた3氏に一筆頂きました。

上野幸彦さんは関根研出身で1986年に、小林知重さんは新田研出身で同じく1986年に、金文錫さんは伊藤紘一研出身で1987年にそれぞれ学位を取得なさいました。

上野幸彦

シロキサン結合を有するポリマーの水における疎水場の形成と触媒活性

61年2月に学位をいただき、大変に感激いたしました。関根先生や卒研でお世話になりました新田先生をはじめ、諸先生方に心から御礼申し上げます。また、いろいろご助言いただきました諸先輩や、だらしのない私に進んで協力してくださいました後輩諸君にも大変感謝しております。ありがとうございます。

現在は、早稲田大学の第2の学院、本庄高等学院で化学を担当しております。本学院は、本庄市大久保山の高台に位置し、早大全入など石神井の学院とほぼ同じシステムであります。2期制、ホームステイ生活などが特徴

としてあげられます。また、本庄校地は、他の校地と比較すると信じられない程広く、所沢のグラウンドが学院をはさんで、山の両面にそれぞれあるという感じです。ただし、赤城下ろしのため風が強く、サッカーやラグビーの試合中に、砂嵐がくると敵・味方がわからなくなり、試合を中断します。テニスコートもくさるほどありますが、風下からロブを上げると、自分のコートに返ってきてしまいます。こういった環境です。成績が良いだけでなく、生命力のある生徒が本庄の学院には向いているようです。男のお子様をお持ちの方は、ぜひ入学させて下さい。

これから厳しい冬に向かいますが、生徒もホームステイで、こたつ一つで勉強しています。私も頑張ろうと思います。今後ともよろしく願います。

P. S. 本庄OBの諸君、なにしろ頑張ってくれ!!

小林知重

鉄およびモリブデンカルボニル化合物を用いた含窒素複素中員環化合物の反応と合成への応用

「アメリカ便り」

昨年(1986年)3月に博士号を取得し、その後すぐにアメリカの片田舎、オハイオ州コロンプスに来て早くも1年以上が過ぎました。コロンプスは主にオハイオ州立大学から成り立っている町で、アメリカ内でも有数の広さを誇るキャンパスには野良(?)リスやウサギがかけまわっています。キャンパス内や公園にはテニスコートが何十面も整備されていますし、体育館にはバスケットボール、ラケットボールやプールの施設も完備されており、日本人の目から見るとうらやましい限りです。このような設備をフルに活用していても私の腹がへこまないのは、ひとえに安ければ一缶30セントで買えるビールのせいであり、決して研究をさぼって楽をしているからではありません。

さて、アメリカ生活での最大の楽しみは車での旅行でしょう。いつ動かなくなるかわからないボンコツに乗って何百マイルもの道程を行く旅は、それはもうスリルとサスペンス

に満ちたものです。事実、ケベックまでのドライブでは、Free way のところどころに落ちていたマフラーやタイヤの破片に恐れをなして、モントリオールでタイヤを新調してしまったものの無事に戻ってこれ、忘れることのできない思い出となりました。

一方、アメリカ生活での最大の悲劇は何と云っても「アメリカにはうまいものがない」の一言につきます。一年以上暮しても、未だにアメリカの『甘さ』と『ケチャップ』には拒絶反応を示したままです。従って、家で食べる夕食の有難さをこれほど身にしみて感じたことはなく、これがアメリカ滞在の一番の収穫かもしれません。

以上、思いつくままに書きましたが、かなり偏見に満ちたものになってしまいました。お許し下さい。

皆様の御活躍をお祈りしています。

金文錫 (Munsok Kim)

Surface Enhanced Raman Scattering Studies of Molecules Adsorbed on Silver Electrodes and Silver Colloids

かなり昔の話になりますが、卒研配属が決まった後、初めて研究室(応化・篠原研(高分子化学))を訪れた際、大胆にも「将来は、高分解能NMRか赤外・ラマンをやりたい」と篠原先生(現名誉教授)に申し上げたところ、先生から「それでは、伊藤さんの所へ行きなさい」とのお言葉を頂き、結局、大学院から化学科でラマン分光を専攻する機会を得ることができました。大学院5年間、伊藤紘一先生の他、多くの良き師に励まされ、また良き先輩、後輩にも恵まれ、さらに家内の応援もあって、研究に専念できたことを幸福に思っております。現在は助手、伊藤先生(在カナダ)がお留守の間、「新しい自然観の創造」を目指して、研究室の後輩諸君とともにより一層努力していきたいと思っております。来年(1988年)夏以降は外国で武者修業、温室育ちの私にとって、これからが正念場と思っております。今後とも皆様の御指導、御鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

研究室紹介

◇ 井口研

当研究室では、量子化学及び物性物理の純然たる理論研究を行っている。では、メンバーの紹介をすることにしよう。

まずは、学部四年の未熟者四氏から…

年中色黒く日焼けした S.O 氏は、単位未修得であるにも拘らず、未だに毎日 Boat 漕ぎなんぞをしている一本気のスポーツマンである。

教職実習帰りの Y.M 氏及び M.G 氏。丸太った Y.M 氏は、実習先の母校で持ち前のワセダマンぶりを発揮し、生徒の心を捉えたようである。一方、普段から寡黙な M.G 氏は、実習先で声を出せたか心配であるが、筆者の関知するところではない。

どんぐり目の R.S 氏。細き体のどこから力がでるのか、左腕からくりだされる剛速球、打者をきりきり舞いさせるカーブと、実は井口研野球チームを支える名投手なのである。続いては、優秀なる諸先輩方…

今や世は超伝導。この戦国の時に下剋上も許されんと、一獲 Nobel Prize を狙うのは Over Doctor K.K 氏である。

研究室を支えるのは、Super Brain K.S 氏。本年度より海の物とも山の物とも分からぬ励起分子間の相互作用を探る。しかし、才気煥発にして博学なる K.S 氏をもってすれば、この難局も必ずや切り開かれるであろう。それよりも、氏にとって最大の難問は人生の伴侶捜しである。

この紹介も終わりに近付き、忘れてはならぬのが T.Y 氏。何を隠そう将棋の名人である。下級生にはお馴染みの T.A である。従って、授業にきちんと出ている者にとっては説明無用の人物である。皮ジャンを着込みブーツを履き毎日ヘアスタイルの手入れに余念のないダンディであることを敢えて付言しておこう。

衰れる H.S 氏は只今健康不良の為休学中である。筆者としては一日も早い回復を祈り、あの颯爽としたサングラス姿を見せてくれる事を願うのみである。

殿(しんがりと読む)をつとめるは、何を隠そう筆者自身である。自らを評するのもおかしなものだが、読者諸氏もこの独特の文体から想像されるがごとき稀にみる寡黙の紳士であり、メシアの量子力学をこよなく愛する学問の士である。

以上、インチキ、嘘、偽りの散見される研究室紹介となったが、井口先生の御指導の下に日々研鑽する学問の集団であることに疑いはない。(無責任 学部4年 T.O 氏)

◇ 伊藤(紘)研

研究室のボスである伊藤紘一教授は、今年の8月より1年間カナダのトロント大学へ研究に行かれています。

8月5日、日本を発たれる日には、先生が恥ずかしがられる事を承知の上で、研究室全員で成田までお見送りに行ってきました。万歳こそしませんでした。4年生が書いた、“いっていらっしゃいませ”の横断幕を、周囲の視線も顧みずやっぱり広げてしまったのでした。

教授のいない研究室がどのような状態になるか心配される方もあるでしょうが、夏休みも終わって学問の秋。研究室一同、以前と変わらず実験に没頭しつつあるところ、ですよ。

今年度の伊藤(紘)研は助手の金さん以下、M2:2人、M1:2人、B4:3人の比較的小じんまりとした構成です。4年生は三人三様の個性が面白く、やりとりを聞いていると飽きません。大学院生は4年生の実験の成否をタネに賭をしたりして、家庭的な雰囲気醸し出しています。

現在、伊藤(紘)研では、ポルフィリン類、ピオローゲン類、スチルベン誘導体、環状ジチオエーテル、核酸塩基、キノン類等の化合物について、様々な化学的・電気化学的条件下での分子構造の変化、及び、金属・コロイド表面吸着種の構造を、主に共鳴ラマン、SERS分光法を用いて解析しています。この1年間で、自力で研究を進めていく力を身につけ一段と逞しく成長することが期待されます。

なお、伊藤先生のカナダでの住所は下記の通りです。

780 Bough Beeches Blvd. Unit21

Mississauga Ontario L4W2N7

(文責 たま)

◇ 伊藤(礼)研

「65号館にない唯一の研究室」

私達伊藤研は何故か51号館の12階の片隅に生息しています。いつからそうってしまったのかはわかりませんが、噂によると、化学科が65号館に引っ越しする際に、落ちこぼれになってしまったそうです。(冗談)

とにかく65号館のどこを捜しても見つからない研究室なので、他の研究室から忘れ去られたり、天然記念物扱いされたり(たまに65号館に行くと珍しいものでも見るような目つきをされる)、また私達自身も化学科であることを忘れてしまうことがあります。

(不憫に思う方は是非遊びに来て下さい)

「コンピュータがたくさんある研究室」

私達は量子化学の中でく分子軌道法なるものを研究しています。理論化学の分野に属するものなので、実験は全く行いませんが、そのかわり種々の理論の構築及びコンピュータによる理論計算を行っています。(非常に難しく聞こえますが、実際は θ , φ , \hat{H} の記号が部屋の中を飛び回っているだけです)こんな研究室ですから、当然ながらコンピュータは不可欠な存在で、台数だけなら他の研究室にひけをとりません。ちなみに私達の研究室には、PC-98XA、PC-9801(2台)、IBM5550などがあります。(何故かソフトの数も膨大です!)

「エキスパートがたくさんいる研究室?」

私達の研究室には、伊藤先生を筆頭に、助手1名、Dr.1名、M.3名、4年生4名の陣容で日夜研究に励んでおります。専門分野は勿論のこと(?)コンピュータに明るいものが多く、C、パスカル、マシン語、フォートラン等の言語に精通している人もいます。51号館に来た方は、是非立ち寄って見て下さい。

(T.K)

◇ 高橋研

「また、もらっちゃった」と高橋先生が包

みをぶら下げて研究室に入ってらっしゃると、なんとそれは文明堂のカステラでした。机の上のお菓子の山をまえにして、学生達は口々に「うーむ、これはすごい」とうなったり、「ぼく、うれしいな」とはしゃいだりしています。先生が今年就職担当でいらっしゃるで、その恩恵に浴しているのです。おかげで、筆者は測定の間年に年中口を動かしているでその腹はブヨブヨになってきてしまいました。

さて、今年の高橋研のメンバーは、宮崎研から迎えた二郎君を含めてM2が3名、M1が4名、B4が3名の計10名です。研究室は引き続き過飽和状態で、5階で流行したロッカー廊下へ追放運動に呼応して多少好転しましたが、新たな装置の導入によっては学生が机と共に追放される日も遠くはないでしょう。高橋先生は、5月下旬に時間分解振動分光の国際学会でオランダに行かれ、スピロピラン類の報告をなされました。このスピロピラン類の光励起種の研究には時間分解共鳴ラマンスペクトル法が有力で、今後しばらくは中心テーマとなるでしょう。曰く、「当分こいつで食ってけそうだけ」、そのほかのテーマとしてはフォルマゼン類、ジチゾン金属錯体、メチルベンゾフェノン等の光励起種の研究があり、CARSは窒素レーザーが現在故障中でしかも米国のメーカーが修理不能でいつ再開できるか見通しが立ちません。又、フィットクロムの研究で申請した今年度の科研費は残念ながら通りませんでした。学生達にとっては麦踏み恐怖からとりあえず逃げられたことは幸いでした。しかし来年度の見通しは明るく、予断は許しません。

最後に、現在挙研一致で秋の分子構造、卒論、修論へ向けて日夜研究に励んでおりますのでOB諸先輩方の叱咤激励をお待ちしています。(文責 Tom)

◇ 高宮研

当研究室は現在、M1;1名、B4;5名という歪みの大きな構造をしています。その影響を受け、一番大変な思いをしているのが、いろいろなことを知っているM1のN氏です。N氏には研究上のことの他に、福利厚生の中でも大変お世話になっています。B4のA君

は、大型免許をもっており、マイクロバスを運転できる便利な人です。T君は4年生にもなって他学科聴講しているロリコンで、双眼鏡と友達です。Y₁君はUVのプロです。化学科野球大会で自信をつけてしまいました。Y₂君は声大きい中日ファンで、野球が上手です。なお、この文章を書いているのがB4の残る一人、Kです。そしてもう一人、忘れてはならないのが、関根研の生き残り、本庄の先生、Dr. Uです。

◆ 研究室概要

代表者 高宮信夫教授

従業員数 6名

研究内容○ポリマーに結合した金属フタロシアニンの物性評価と触媒機能

○金属イオンを含むフタロシアニナトポリシロキサンの電気伝導性と触媒機能

○ポリマー鎖に結合したビオロゲンの電子伝達機能

○液晶性ポリシロキサンの合成と物性

◆ 待遇と職務内容

勤務時間 不定(有徹夜)

休日 原則として日曜日

福利厚生 ROYAL 他

職務内容 研究職

◆ 連絡先

〒160 東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部65号館509

高宮研究室

○配属希望者はご一報下さい。

◇ 多田研

多田研は、有機化学の研究室である。従って、当然のことながら、実験を行う。ここで生きぬくためには、ピリジン等のかぐわしき香りにも耐え得る忍耐力と、少々の硫酸が手にかかっても動じない図太い神経が必要とされる。こんな風にかくと、鬼の住み家のようなであるが、研究室の雰囲気は、温和な多田先生を中心として実に家庭的なものである。

まずはじめに、その住人達の紹介をしよう。M2のM₁氏は、朝から晩までモクモクと実験されているまじめ(?)な先輩である。しかし、時々奇声を発するのが玉に傷だ。

M1のG氏。(以下3名M1)その人の好い性格が災いして、今では多田研のマスコットと化しておられる。M₂氏はその温厚な性格から、多田研のムーミンパパと呼ば慕われておられる。Y嬢は、とてもにぎやかな人で、彼女が出て行くと研究室は急に静かになる。

B4のO氏。(以下4名B4)教師を目指す好青年と思いきや、実は、NAMPAが大好きである。D氏は多田研のエンターティナーで、彼のカラオケはプロ並みだ。M₃氏は、その体格から多田研の用心棒となっている。しかし、時々身内にも襲いかかるので御用心。以上のメンバーに筆を加えた計8名がこの室の住人である。次に研究内容の紹介に移る。当研究室では、補酵素B₁₂のモデル体であるコバロキムを中心とする補酵素反応場モデルの合成及び機能解明の研究を行っている。これに加えて、反応中間体としてのN-ラジカルやS-ラジカルの挙動解明、および、ラジカル環化反応による天然物合成等の研究がある。

いずれにしても、アットホームという言葉が、この研究室にはふさわしいようだ。興味のある方は、ぜひ遊びに来て欲しい。以上

◇ 新田研

「小さな部屋に大所帯、知らない人が見る新田研の第一印象は、そうじゃないかと思いません。11名もの人間が、所せましと実験している現状は、昨年と比べてちょっと異常かもしれません。でも、そこはうまくしたもので、朝早くからすばやく実験を始める極く少数派のI氏、陽が落ちてから目が輝き出すK氏、いつも規則正しいM氏、などなど、各人の生活習慣の違いで、なんとかやっている様です。

新田研の主な人々を紹介しましょう。
from 10 to 12を毎日規則正しく守る、新田研の重鎮から化学科のそれになりつつある、健康優良児?宮野氏(D2)、続いて「オチャメなドクター」を目指している病弱な?飯野氏(D1)、「歌って踊れるドクター」鹿又氏(D1)、普段はまじめだが、酒が過ぎるとたまにブツツする西村君(M1)、応化の清水研から移籍組の添田君(M1)、同じく佐藤研から移籍した私、多田(M1)、その他、4年生では、我慢強いS君、就職活動のエキスパートK

君、ボーッとしているS君、……など様々な性格の人が集まっております。

新田先生、「…は、どったったの？」の口癖を持つ、学生思いの先生で、いつも研究室で学生に、おもしろい話を聞かせてくれます。

研究内容： 当研究室では、複素環化合物や高歪み化合物など有機化合物の合成や、その物性、反応性などについて研究を行っています。詳細については新田研までどうぞ。

当研究室では、ペットの世話を理由に、堂々と遅刻してくる様な人でない限り、暖かくむかえる準備をしております。

◇ 松本研

6月も半ばになり、いよいよ松本記念が開催されることになりました。天気はあいにくの雨。午前中にゼミがあったにもかかわらずみんなピンピンしております。スタート直前、緊張の一瞬。おっとゲートがあきました。各馬いっせいにスタート……と思いきや一頭、なんといすを並べておいています。どの馬でしょう。あのかりあげからするとたけおでしょう。何か尻から、ガスを出しながら走り出しました。さて、先頭グループに目をうつすことにしましょう。富士厩舎のマッキーバ。上カツがえさであります。あとつづいてしかめっ面の太郎。チキンラーメンの好きなしゃぶ

中、いつも陽気なチャーリーⅡとつづいています。先頭から少しはなれているのが、第二集団。ちょっと老いてはいますが、パワーのある馬がそろっています。何か大声でほえているのはサカラッキー、ちょっと太めのリキ、いたって普通なのがチョであります。出走馬の紹介が終わったところでレースの状況を見てみましょう。やはり、予想通りサカラッキーが出てきました。10月に拳式ということで心身共に充実しているのでしょう。しゃぶ中とチャーリーⅡとの三つどもえ。しゃぶ中、エネルギー源のソーセージを食われてちょっと脱落。おっとチャーリーⅡ、高宮研の角をまわったところで落馬。何かレースは混乱の色を呈してきました。太郎は硫化水素をまき散らすし、リキは手を洗いに引っちゃうし、チョは車の中から女の子に手を振り出しました。あーあ、もうめっちゃくちゃです。

「いい加減に下さいよ！」馬主のかずこちゃんがおこってしまいました。てなことでレースはおしまい。

このような破茶滅茶な松本研ですが、実験もちゃんとやっていて現在では新規無機錯体(Pt, Pd, Ru)の合成、その触媒機能の研究を行なっています。みなさん気軽に遊びに来て下さい。

学部生の声

● 1年生

7月15日、第1回化学科1年親睦会が開かれ、和気藹々とした雰囲気の中、歌やジョークが飛び交い、楽しい一時を過ごした。既に免停が決まってしまった教習所通いのOの話、慶応大学拳闘部！に捕われの身となった恋人を無傷で救出したSの話、国籍不明Wの話。うーん！面白かった。学科内でこのくらい打ち解けた話ができるのは化学科だけではないだろうか。

現1年生は42人。そのうち女子は6人。理工学部に入学生し、7年目の男子校？と半ば疲れ切っていた私にとっては、まばゆいばかりの輝きである。Swimmer & Skierの張り切

りオバチャンのAさん、甘い物が大好きでとても我儘なMolecular Orbitalさん、すっかりお嬢さんのKさん、ちょっぴりお姉さんのSさん、スケバン刑事兼ニコチャン大王のTさん、小さいけれども○○○○？Hさん。彼女ら豪華キャストには、うーん！とうならざるをえない。

(中略)

前述の親睦会を含め、入学式、オリエンテーション、早慶戦、前期試験等、早大生としての洗礼を一通り受け、今一段落したように思います。なかでもオリエンテーションは、化学科における最初のイベントでありまして学科内における縦横のつながり、そして大学とは如何なる場所かを知る上で貴重な体験でした。とは言うものの、一体早大生たる者如何にあるべきか、今だにわかりません。わずか3ヶ月ばかりで何がわかるのかと言

われればそれまでですが、早く自他共に早大生として認められるようになりたいと思っています。大学というのは、高校と異なり、教授が我々の進む道を提供してくれるのではなく、自らが自分の進む道を切り開いて行くものだと考えています。しかしながら私は、早大のモットーである自由という広い枠組の中で、その広さに圧倒され、これからの4年間一体何ができるのか、何を専門にして行くのか、不安を抱くばかりです。この様な不安を抱えているのは、僕ばかりではないと思いますが、そうした不安を持つ事ができたという事は、この3ヶ月間の生活の中で、最も大きな収穫ではないでしょうか。夏休みが終わり後期が始まる頃には、多少なりとも余裕が生まれ少しは落ち着く事でしょう。この先、我々の進む道の選択について様々なアドバイスを与えて下さる先輩・教授の方々にもう一度言わせていただきます。まだまだヒヨコですが、先輩・教授の皆さん、どうか御指導よろしくお願ひします。

《文責》 逆立ちしたキノコ?!

● 2年生

化学科の学生のみが集う授業は有機化学B(多田先生)1コマだけであるから、化学科2年生独自のカラーというものは特に意識したことがない。

他学科との合併授業においては、なにしろうちの学科の人数の方が圧倒的に少ない。そのため応化との授業では応化のカラーに打ち消され、(応)物との授業では(応)物のカラーに打ち消されることになる。教授なども、「君たち物理学を志すものは…(略)…これは去年ベクトル解析((応)物1年必修)でやったから…(略)…この続きは演習の時間((応)物2年の授業)でやる……」

「え? 応化の人達だけの授業じゃなかったの」といった具合であり、化学科の影はまだ薄い。在籍人数が少ないというより欠席者数が多い為かもしれないが…?

教室の中でのカラーというものはそれ程重要ではないのかもしれない。個人的に接すれば、へんな奴もかなり見つかる。早大化学科という枠を超えたところで面白いつきあいをしたいと考えている。

某Y予備校の出版物の話。難関私大理系(医系含)ベストテンの5位に早大化はランキングしている。早大理工では2位だという。これは早大の人气が高まったというより、化学の人气が高まった為だと感ずるが、実際はどのなのだろうか。化学に対するイメージは大学に入るとかなり変わるものだと思う。僕に関して言えば、化科が科学に見えてきた。そしてこれはとてもうれしい。化学はそれ自身の枠を超えて進展していくのであろう。

明るい日ざしとスズメの声に目が覚めて、窓を開ければ紅い朝顔。

最後に自己紹介。私は試験終了間際にあわてふためくと分っていても、必ず最初に十分遅刻して来ます。分っちゃいるけどやめられない。ああ。(文責 M.K)

● 3年生

うへん。今日は1週間で唯一の1限の日。私はとっても眠いの…と自分のクジ運の良さに感謝しています。つゆに入り、試験も近づき、そろそろあせりも出はじめています。懐しい人に会うことが多くなり、突然お友達になる人が現れるのも、この時期の特徴です。時はとてもゆっくり流れ、平和な化学科3年は、今日も授業終了後の相談を始めました。“ビリヤード行こう。” “どこで飲む?” “えーと、今週のレースは…” 最近は、実験でバンクした後の一杯も一部ではやっているようです。そんな私達のお祭り好きと団結力が表われたのが、5月に行われた野球大会でした。初夏の太陽のもと、伊藤先生ら先生方の御協力もあって、過半数が六郷土手に現われました。人数が多くて、全員を打席に入れるのが大変でした。そのせいか若さのせいか知りませんが、しっかりと優勝してしまったのです。本来ならばここで盛り上がるべき所ですが、悲しいかな、次の日はレポートの提出日だったので。(それでも期限外の山ができたなんて、とてもとても!?) 今年のドラフトの目玉が、A君とK君となるであろう事は間違いないでしょう。秋はぜひとも連続優勝といきたいですね。

授業が終り、いっせいに話が始まり私の頭はパニックしています。だいたい私は日本語が苦手なのに!! ここで教訓1つ。ここ(理工

学部)にいと、まともな文章が書けなくなります。教職や人文の時にとっても困ります。みなさん気を付けて下さい。

(やっとスペースを埋めた K.S.)

● 4年生

研究室に入ってから3ヶ月程たって、ようやく研究室のリズムに合ってきました。私がいつものように実験にいそしんでいると、例の稲化会委員のY君とK君(39才)が毅然たる態度で我が松本研に入って来て、「4年の原稿を書いてくれ」と言ってきた。私は他の4年生のことはよくわからんと言って断ったが次の文句で書かざるをえなくなったのである。「お前は、いろいろな研究室で油を売っているそうじゃないか。皆がお前を油売りと呼んでいるぞ」私は、何も言えなかった。

閑話休題、4年生の様子を記述してみましょう。大きく分けて現在4種類のタイプが存在しています。①就職派②大学院・公務員・教員採用試験などの受験派③大学院推薦組④人生ゆっくり行こうや組。まずはタイプ①の新田研のK君の近況を見てみましょう。彼は理系では異色の商社志望のひょうきんボーイです。(今では就職のエキスパートと呼ばれている)最近彼は学校にほとんど姿を見せず、たまにリクルートブックで研究室に登場するといった具合で会社を回りまくっています。本人もそれなりに就職先を心配しているよう

ですが周りの人たちの方が騒いでいて、「あいつは自分でどういう方面に行きたいのかわかっていない」「いや、あいつはああ見えても結構要領がいいんですよ」と周りが盛り上がっていました。一方、本人はボスの顔色の方が心配のようでした。就職派はとにかくたいへんそうです。自分の足で見てまわる以外に手がありませんから。(OB、OGの方の御意見はたいへん参考になっています。これからも研究室のほうに遊びに来て下さい)次はタイプ②の松本研のK君とU君を見てみましょう。彼らは、はっきり言って余裕を見せている。だがそろそろ尻に火がついてきたようだ。いつものなげない会話で受験の話を出すと引きつった笑みを浮かべ、おもむろに『英標』を開き出すのである。そして一言「プレッシャーをかけるな」と怒るのであった。そこで平気でプレッシャーをかけているタイプ③の私が登場するのです。このタイプの人が一番のほほんとしていて、今だに“大学生”しております。しかし、教員試験(7月中)を受ける人はしっかり勉強していますよ。タイプ④は、人生を悟っている人が多い。それ以上は未熟な私には分かりません。

天下太平の中で硫化水素の臭いをかぐたびに一抹の淋しさを感じている油売りの私でした。

自由投稿

天高く浮き雲が流れる季節がきました。ながい夏休みが終わって、ふたたび楽しい学校生活が始まりました。そこで前学期の感想を述べたいと思います。

大学生活には、楽しい事が沢山ありますが、苦しい事もあるでしょう。しかし私にとっては楽しい事しかありません。なぜかと言うと、それは楽しい事も嫌な事も全部楽しみにしているからです。ハハハ……

日本に来る前を振り返って見ますが、私は高校を卒業して、しばらく大学に入っていました。文学部の日本学科でした。まだカタカナも勉強し終わっていないところでしたが、

日本へ行って留学する機会があったので、それを見のがさずに捕えました。ぜんぜん違う事を勉強する事になりますが、以前から日本へ行きたかった私は退学して日本へ来てしまいました。

一年間日本語を勉強して、そして入学試験を受けました。運良く、早稲田大学に合格したわけですが。一流の大学に合格したとは幸せな事ですけれども、それからうまくいけるかどうか、不安なものです。特に不足の日本語の能力が気になっています。ローマ字を活用しているインドネシアから来た私にとっては、漢字が面倒になります。言うまでもなく、日本語自体はまさしく難しいです。

勉強の仕方としては、主として本を読むのでしょう。ですが、日本語で書かれている本

が読みづらくて、いやになってしまいます。本を読む時にまず漢字の読み方を知らなければならぬわけですので漢字辞典を調べます。そして、次は日本語—インドネシア語辞典を引いて言葉の意味を調べます。全部分かったら、今度は文章として全体的な意味を取ります。ここでよくわけのわからない意味が出てきたり、またはぜんぜんまともな文章にならなかつたりします。ですから、実験をする時

は、ほとんど指導書を読んでおかないでやります。レポートを書く時にはめっちゃめっちゃ困難です。なさないですが、自分は怠け者ですし、前期の成績は偉いだめでした。

そういう事で、これからもっと頑張りたいと思います。実りの多い大学活動、また美しい日本での生活をやっていきたいと思います。よろしく願います。

(B1 ニキタ・アリアフ・カムカ)

卒業生短信

横田昌明：1年間の予定で浦和市立病院に出張して居ります。奇しくも慶応の外科に入局することになりましたが、血管の内には早稲田色の血が流れています。**李成元**：働き中毒集団の中、1人マイペースで無機材料の開発をしています。**黒木俊夫**：大阪大学薬学部に派遣になりました。**先山厚子**：武蔵野北高も新設8年を終え、最近では進学先もずい分頑張っています。今年は現役、浪人とも、後輩が入学しそうです。私は今、2年の受持ち。来年をめざして生徒を鍛えています。**土屋（大原）葉子**：今年3月長年勤めた会社を出産のため退職します。**安藤克則**：上司の反対を押し切って開発した技術がイタリアのアルカンターラ社に4億円で売れることになりました。**池山（小宮）永津子**：12月にまた男の子が生まれました。いたずら盛りの2才半の長男のお尻をたたきつつ、すっかりたくましい母親になってしまいました。**車谷勝行**：10月12日に結婚しました。**石井聡**：幅広い知識と判断力の必要な研究管理という名の雑用係をしています。つきあいが良く、自分を殺さず、周りに流されずの本社勤務、自分に合っているような気がします。**神田東作**：ドクターとりました。岡山大に就職しました。助手です。**青木（鈴木）恵**：去年の7月に結婚し、名前、住所が変わりました。共稼ぎですので、忙しい日々を送っています。**荒川靖**：昭和61年3月、学位を取得し、4月に助手として採用されました。**小林知重**：アメリカ、オハイオ州コロンバスへ参り、元気に研究している様子でございます。**澤田信吾**：現在勤めている学校は前身が女子校で今でも4分の3は女子生

徒です。はじめのうちはうれしくてうれしくてたまらなかったのですが、このごろはセラー服を見ると気分が悪くなります。**庄司和夫**：昨年(61年)4月に結婚しました。大学にはこれからもリクルートでうかがいますので冷たくせず相手にしてください。それなりのことはあるよう努力いたします。**宮田信郎**：高宮先生に御媒妁をいただき結婚しました。パートナーは早稲田大学混声合唱団で、いっしょに歌った仲間です。**井上健夫**：「ヒューマニズムかサイエンスか。化学科の義理と人情で爆発だ!」**田中治幸**：3年間の担任を終えて一段落したところです。**見沢朗**：87年4月に結婚するぞ!相手は銀行員。妻となる人のイニシャルは結婚前後共、S・M。**小山昇**：86年3月長女が生まれ親子3人つつましく暮らしております。関根研のZombiより。**佐々木一郎**：学生時代と同じように毎日実験台に向かい、1人こつこつと研究?に励んでいます。**寺田泰比古**：ひょんなことから免疫学の分野で細胞がどのように自己、非自己を認識しているかを分子レベルで研究しております。近年の生物学は分子生物学全盛ですが、DNAとは単に演劇の脚本であって舞台の上の役者はタンパク質で、このレベルでの機能が解明されぬ限り、まだ何もわからないという感を強くしております。生物の神々しきまでの精巧さに立止まっては夜更けまで研究に励んでいます。**芳野齊**：光メモリーの開発をしています。製品化のために毎日忙しく仕事をしています。**山崎（清水）秀子**：今は専業主婦ですが、また働きたいと思っております。**武田幸雄**：大学時代とは異った分野で働いています。血栓溶解剤の企業化に向けて頑張っています。仕事は大変ですが、まあ楽しくやっています。研究所は大学と雰囲気似ていて

過ごしやすい。竹村佳昭：会社に入って1～2年は「新人教育期間」ということなので、新人としての義務を果たすべく、周りの先輩や管理職の方々を如何に教育しようか日夜心を砕いております。添田先輩が社内秘の事項を暴露されたのには（稲化会報5号）驚きました。平塚光範：除草剤の研究をしています。雑草たちはたくましく元気です。斉藤武司：この間の構造研のOB会はとても楽しかったです。研究室に残っている同期達が全然変わっていないのがおもしろかった。長谷川教子：スキーが雪山が目の前にちらつくのに現実には山のような生データの整理が……あせて

しまう年の瀬です。松野尾隆治：先日水島地区での社内研修にて二井野雅彦さん（関根研卒）に会いました。同じエンジニアリング樹脂を扱っているとは思わなく、奇遇だなあと笑い合いました次第です。村上守生：超伝導NMRを用いて医薬品の研究をやっています。大島薫：第7期中條さんと同じ工場です。お目にかかることもしばしばです。私もコピーマシンのトナーで毎日爪を真黒にして頑張っています。杉原順平：有機ケイ素化合物及びそのポリマーの合成をしています。

スピリドノフ教授に インタビュー

今年度、特別企画として、早稲田大学交換研究員としてモスクワ大学より早稲田大学にいらしているスピリドノフ教授にインタビューしました。（文責 編集部）
〈スピリドノフ教授略歴〉

Victor Pavlovitch Spiridonov

1931年モスクワに生まれる。1954年モスクワ大学化学科を卒業。現在モスクワ大学化学科教授。専攻は電子回折。

Q) 日本へいらしての印象はどうですか。

A) 日本人々は、とても友好的で親切です。そしてサービス精神が旺盛ですね。私は日本の古来からの伝統が好きです。

Q) 京都へ行かれたそうですね。

A) 竜安寺へ行きましたが、興味深い庭ですね。哲学的な、しかも科学的な背景をもった庭園と言って良いでしょう。たった14個の石があるだけで、常にひとつは隠れて見えない。何か背後に隠れている。思想を持った庭というのはおもしろいですね。

Q) 現代の日本についてはどうですか。

A) 今日、日本は他国からの影響を受けています。とりわけアメリカの影響が大きいです。英語で映画やテレビ番組が見られ、何でも英語、英語という感じですね。日本の伝統がアメリカに左右されています。日本での西歐化というのはかなりの部分でアメリカ化という感じですね。

Q) 日本食は口に合いましたか。

A) ええ。胃袋はおどろいているようですが、調子はいいです。しゃぶしゃぶ、すし、焼き、天ぷらなどいくつか食べてみましたが、中でも天ぷらは大好きです。宿舎では自炊生活をしています。その方が安上がりですからね。慣れないながらも、卵やじゃがいも、ヌードル、ミルクなどを買い込んで、ロシア風に料理しています。日本の食べ物は高いですね、ソ連の10倍位します。

Q) 日本酒は飲みましたか。

A) ええ。ソ連のウォッカよりはるかにマイルドですね。ウォッカと言えば、ソ連では2年程前からアルコール追放運動（禁止ではない）を実施して、生産量をおさえています。したがって、店で買うことが大変難しくなっていますし、値段もとても高く、ウォッカ1本が肉1kgの2.5倍もします。

Q) でも、ロシア人にはお酒の好きな人が多いのではないですか。

A) ええ、まあ。でもこれは新しい伝統です。

Q) ソ連の教育制度は？

A) 義務教育としてmiddle schoolに7年から10年間行き、それが終わると大学（high schoolと表現していた）を受験することができます。また、middle schoolを7年間で終えた後、technical school（4年間）へ行くこともできます。technical schoolを卒業した場合にはtechnicianになり大学を卒業した場合はengineerやscientistとなります。化学科では、1年次に無機化学、2年次に分析化学、3年次に有機化学、4年次に物理化学、5年次には研究室で科学的研

究を行います。教育は全て無償で、奨学金ももらえ、成績が良ければ増額してもらえます。

Q) 家族のことをお聞かせ下さい。

A) 1956年に結婚して以来30年以上同じ妻です、交換もせずに。(笑い) 私くらいの年齢のものは妻を換えたがりますが、私は違います。他に、娘がひとりと双子の孫がいます。

Q) 区別がつかますか。

A) ええ。写真をお見せしましょう。どうですか。

* * *

スピリドノフ教授は11月17日にソ連へお帰りになりました。奥様へのお土産は編み機、お孫さんたちへは日本の人形だそうです。

会計報告

1987. 10. 24 現在

61年度繰越金	1,044,623
■収入の部	
会費	651,000
計	1,695,623
■支出の部	
稲化会報(第5号)	50,700
名簿(第4版)	132,000
消耗品費	32,165
通信費	73,920
雑費	9,890
計	298,675
■残金	1,396,948
	(単位・円)

お願い

- 最近OBの方々の住所等の変更が多く、消息不明となっている方もおられます。来年は名簿発行の年でもあり、正確な情報を集めるべく努力しております。転居の際は市役所、NTT、郵便局のみならず稲化会にも御一報下さいますようお願いいたします。また、自由投稿(フィクション・随筆あるいは川柳など)や新企画等も募集しております。下記宛までお寄せ下さい。

〒160 新宿区大久保3-4-1

早大理工学部 化学科事務室気付

- 稲化会費をお払い下さい。

正会員 1,500円、学生会員 750円

尚、払って安心の終身会費は30,000円です。

稲化会役員

会長	高宮信夫	
副会長	長瀬 裕	
監事	井口 馨	
評議員	井口 馨	伊藤紘一
	伊藤礼吉	高橋博彰
	高宮信夫	多田 愈
	新田 信	松本和子
	長瀬 裕	矢野圭一
	中山 匡	小又昭彦
	井上国見	宮田信郎
	百瀬 浩	小林慶裕
	宮野浩行	伊藤信一
常任委員	会計 新田 信	
	庶務 松本和子	
学生幹事	M2 玉置真希子	塚田光男
	M1 遠藤 茂	境野佳樹
	B4 小西隆太郎	湯沢哲朗
	B3 朝倉徹也	古瀬礼子
	長谷川建	
	B2 泉千英子	植田佳代子
	神崎昌之	
	B1 安久津良恵	朱島 隆
	岡美由紀	山口武志

